

平成 28 年 4 月 15 日

# 玉敷神社の鎮守の森管理についてのレポート

一般社団法人 鎮守の森コミュニティ推進協議会

埼玉県加須市にある玉敷神社宮内宮司様から「鎮守の森」の維持管理について、ご相談があり、平成 28 年 4 月 6 日に宮下代表理事、鳥海専務理事ほか 1 名と内山緑地建設(株)OB の小池氏、内山緑地建設(株)榎崎部長とで社叢の現地調査を行いました。

この活動は、当協議会の活動フィールドである「鎮守の森コミュニティ」のインフラ整備と位置づけ、全国各地の鎮守の森の維持管理に苦勞されている神社の要望に応える形で一つの事業として発展させてゆきたいと考えています。

以下は、内山緑地建設(株)OB 樹木医 小池英憲氏の現地調査レポートです。

## <玉敷神社の社叢林管理の考え方>

玉敷神社の森は関東地方の極相林として学術極めて重要な森として、埼玉県の「ふるさと森」に指定されています。面積は約 1.5ha で、高木層はシラカシが主体で落葉樹のイヌシデが見られます。その下にネズミモチ、シラカシ、ヤブツバキ、ヒサカキ等が亜高木、低木層を構成して安定した森です。

次に管理の要点をのべます。

### 1. 参道周辺の管理

マツが主体ですから、この景観を保持する事が良いと思います。松が枯れた場合、苗木が良いですからすぐ植える事を進めます。

根元周辺は色々な樹木を混植する事は避けて、広がり空間が演出できる、草本植物で宿根草の植栽が良いと思います。



06/04/2016

## 2. 樹林内の管理

神社の森は、シラカシを中心とする極相林として安定しています。この状態を維持するためには、高木層が枯れないようにナツズタ等のツル切り、外周林を大きく伐採して風・光線が入るような、急激な環境の変化が無いように注意しましょう。

枯れ枝、枯れ木、被圧された枝葉のない物は早めの処置が必要です。伐採した枝葉を林外に持ち出すのが大変ですから、林内で大小の枝を組み合わせて大きな鳥の巣（ビオネスト）を作り、その中に細かな枝葉を捨てます。枝葉を置きっぱなしですとゴミですが、きちんと整理すると、森の景観の1部です。



・放置した枯れ枝



・枯れ枝を組み合わせる（ビオネスト）

## 3. 剪定方法

剪定は森の中ではあまり必要ありませんが通路、建物回り、隣地と境界では大切な作業です。枝の剪定は切る位置の間違いで樹形が乱れたり又、剪定の時期の間違いで高木が枯れる事もあります。特に神社の森は巨木がある事で風格を保っていますが、大枝の剪定の誤りで腐朽して枝折れ、倒木の危険があります。現地でも写真のように、枝の途中で切断している樹木がありますが、枝の分かれ目で切断する適切な剪定方法で行いましょう。（参考資料参照）又剪定の誤りで、枯れ枝が残っている樹木は、傷口を塞ぐ邪魔をしていますので切り落としましょう。

・枝は分かれ目から切る



・切残し枝の切断



#### 4. 建物回りの管理

建物回りは倒木、落枝により人・構造物に被害を与えますので、定期的な専門家の診断を進めます。特にイチョウなどの落葉樹は、冬は枯損の状況が確認しづらいので葉が出た時行うようにします。又、人目が多い場所では樹形が悪い樹木と樹形の違う樹種の整理して、統一された景観の構成を考える事も必要です。



・イチョウの木



・統一されていない景観

#### 5. 外周の管理

隣地との境界は、クスなどの大きくなる樹木はなるべく小さい時に処置して、ヒサカキ、ヤブツバキ、アオキ等の灌木類（ソデ群落、マント群落）にします。現在大きくなっている樹木は、根元から除去する事が望ましいですが、経費が掛かりますので先端から少しずつ縮小する方法で計画的に行うと良いです。但し、一気に高木を除去すると、安定していた林床に、雑草・ササが入って来ますので、急激な環境変化は避けましょう。



・外周林



・ササが入っている

(報告：内山緑地建設(株)OB 樹木医 小池英憲 28.4.6)